

令和6年度 音楽科授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年のおよそ9割の児童が楽しく音楽活動に参加できている。
- ・授業中の発問への答えやワークシートの記述などから、全学年のおよそ8割近くの児童は、音楽のようすを感じ取りながら、音楽を聴いたり演奏したりすることができている。
- ・歌いたい楽曲や演奏したいパートを自分で選ぶなど、主体的に音楽活動に参加できる児童が多い。

(2) 課題

- ・歌唱や音楽活動を楽しんでいる一方、主に低学年で歌声が叫び声になってしまう児童が各学級数名程度いる。
- ・器楽に苦手意識をもっている児童が全学年各学級1～2割程度いる。
- ・歌唱や演奏、音楽づくりにおいて、自分が工夫したことを記述したり発言したりすることが積極的にできる児童が全体の2割程度にとどまっている。
- ・以前から親しんでいる楽曲には意欲を示すが、新しい教材では意欲が低下する、など楽曲や教材により学習意欲に差が出ることがある。

2.授業改善のポイント(観点別)

(1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の歌声や周りの歌声を聴きながら歌う活動(例えば「輪唱」など)を通して、自分の歌声に気を付けて歌ったり周りの音に合わせて歌ったりする技能を身に付ける。 ・教師の階名唱に続いて児童が階名で模唱したり暗唱したりする活動を通して、正しい音程感覚を身に付けて歌う技能を養う。 ・反復練習や階名唱などの基礎的な学習に身体表現を使い、児童が楽しみながら基礎的な演奏技能を身に付けていけるよう支援する。	・授業の中で、児童が感じ取った曲想や歌詞の内容などをもとに、いろいろな表現を試してみたり、体験したりする場面を設定する。例えば、演奏する音の大きさを変えてみて、どのように音楽のようすが変わるのかを体験的に学ぶ。そして児童の表現の変容を具体的な言葉で伝えながら、学級全体で様々な表現の価値を言語化して共有できるようにする。	・リレー唱や分担唱、数人で歌う場面を入れるなど、様々な方法で何度も歌ったり演奏したりすることで、児童が新しく出会う楽曲に親しんでいけるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・範唱や範奏を聴いて真似したり、楽譜を指さしながら歌う活動などを取り入れることを通して、児童が音色に気を付けて正しい音の高さで歌ったり演奏したりする技能を養う。 ・個人の習熟度に合わせて指導する時間を授業中に設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。	・歌詞の内容や曲想についての意見交換をペアや学級全体で行う。そしてそれを生かすためのスタッカートやレガート、強弱や速度などの違いによる表現方法を実際に試し、表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、なぜそのような表現にしたかを再度言葉で説明する場面を設定する。	・児童が工夫した表現を互いに聴き合う場面を設定し、それぞれの良さを認め合う体験を積み重ねることで、主体的に表現しようとする意欲を育てる。 ・リレー唱や分担唱、数人で歌う場面を入れるなど、様々な方法で歌ったり演奏したりすることで、児童が楽しく音楽活動できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の歌声をよく聴きながら歌ったり、互いの歌声をじっくり聴きながら歌ったりする活動を通して、自然で無理のない、曲にふさわしい歌声で歌う技能を養う。 ・個人の習熟度に合わせて指導する時間を授業中に設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。	・歌詞を音読したり、ペアや学級全体での意見交流をしたりすることにより曲の特徴と歌詞の内容との関わりについての理解を深める。そしてそれらを生かすための様々な表現方法(強弱、速度、またスタッカートやレガートなどの奏法)を実際にいくつか試すなどして表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。また、表現方法を互いに聴き合ったり、思いや意図を言葉で説明したりする場面を設定する。	・学年全体での合唱や合奏、学級全体での合唱や合奏、グループでの合奏、ペアでの二重奏など、さまざまな演奏形態を体験し、それぞれの良さや面白さを感じ取って主体的に表現しようとする意欲につなげていく。 ・グループで楽器を選択したり、担当するパートを分担したりする活動を取り入れることで、児童が主体的に表現活動へ取り組めるようにする。